

# 豊能町農×観光戦略推進計画の見直しについて

令和2年5月  
豊能町

## 1. 基本的な考え

豊能町では、豊能町まち・ひと・しごと総合戦略とそのアクションプランを受け、平成29年3月に農×観光戦略推進計画（以下「推進計画」という。）を策定しました。

これに先立ち、平成28年10月、試行的に農産物を販売する施設として、「志野の里」をオープンするとともに、推進計画では、情報発信拠点として道の駅を展開することを基本としていたことから、平成30年3月に「道の駅」基本構想を策定し、同年4月以降、道の駅の整備に関する基本設計・実施設計に取り組んできました。

その後、採算性や予定地に現存する公共施設の利用等の問題から、方向性を見直し、「道の駅」構想は白紙に戻すこととなりましたが、一方で、推進計画は、農業や観光の振興はもとより、町の発展にとって大変重要な計画であることから、令和2年1月に開催された豊能町まち・ひと・しごと総合戦略会議において、令和3年度末まで推進計画の期間が延長されることとなりました。

そのため、推進計画に定められた各実施事項について、「道の駅」の展開を前提としていたものを、町内の公有施設や滞在拠点施設の活用を図るものとするよう見直すとともに、併せて、推進計画を策定した後の社会環境の変化や各地域における取り組み等を反映したものとするよう見直しを行ったものです。

今後、豊能町においては、引き続き「自然に恵まれ、健康で、畑と食卓が近いまち」として人を呼び込み、地域の資源をしごととお金にかえる」ことを基本コンセプトとして、見直したそれぞれの実施事項を基に、具体的な施策を推進していくこととなります。

## 2. 農×観光戦略推進計画実施事項

### 1. 農×観光情報発信拠点の展開

#### 1. 農業と観光の情報発信と既存施設を有効活用した拠点づくり

人を呼び込み、地域に賑わいの場を提供するため、農産物直売所（志野の里）の運営を強化し、農業・観光の情報発信機能を高めます。さらには、国道423号線沿いの町有施設等を有効に活用し、情報発信拠点の機能充実を図ります。

また、町内外の関係機関や事業者と連携し、魅力的な事業を展開するとともに、地域協働による人を呼び込む仕組みづくりを進め、HPやSNSも積極的に活用し、関係人口の増加と相互に顧客が行き交いたくなる情報発信を行います。（※補足資料参照）

### 2. 観光ルート・回遊ネットワークの創出

#### 2. 観光ルート・回遊ネットワークの創出～回遊できる豊能町を目指す～

町内の豊かな自然や景観を楽しめるよう、ハイキングやサイクリングコースの充実を図り情報発信を図ります。

また、他の実施事項と連携し、相互に顧客が行き交いたくなる情報発信を行います。そのため、町内の滞在拠点施設を中心に右近の郷、花折れ街道、妙見山など四季に合わせたルートの紹介や事業者とのネットワークを構築します。

### 3. 都市農村交流の展開

#### 3. 農地整備推進と観光農園開設による都市農村交流の展開

牧地区で行われる農地整備を契機に、農地利用のニーズが高まるとともに、都市農村交流も一層活発化することが予想されることから、都市住民のニーズに合った観光農園システムの確立を目指します。

また、国等の農地整備に関する制度を有効に活用し、地域活性化に向けた取り組みを推進します。

### 4. 農業生産力の向上

#### 4. 就農支援塾の展開～農業生産力の向上を目指す～

新規就農希望者や週末農業を検討する方をターゲットに、就農支援塾を展開し、農業の担い手育成に努めるとともに、直売所の他、百貨店などにも出荷できるレベルにまで育成し、農業生産力の向上を目指します。

また、町内で就農を希望する方々の転入促進に努めます。

## 5. 農産物のブランディング

### 5. 豊能町農産物のブランディング

WEB・SNSの活用や町内外の関係機関と連携した事業を展開し、引き続き農産物のブランディングやヤーコン等の特産品の普及を目指します。

また、農業の収益力を高めるため農産物の6次産業化を推進するとともに、コーナー展開や試食販売会の開催など、百貨店、生協等と連携を図りながら、農産物のブランド力向上を目指します。

さらに、地産地消を進めるため、志野の里等において魅力的なイベントを開催するなど、集客力・販売力を高めます。

## 6. 高山地区の観光・滞在拠点、交流拠点の整備、活用

### 6. 高山地区の観光・滞在拠点の整備～右近の郷の活用と充実～

町の文化や歴史に触れるとともに、農業や食育などの体験交流の拠点として「右近の郷」を活用します。さらには、高山右近に関連する資料等の展示、充実を図り、より魅力的な施設となるよう努めます。

また、民間事業者と連携を図りながら、高山地区における宿泊施設、カフェ、レストラン等の観光・滞在拠点の整備を進めるとともに、棚田をはじめとする自然を活用した事業に取り組むなど、より長く豊能町を楽しむ仕組みづくりを目指します。

## 7 豊能町の魅力発見・コンテンツづくり

### 7. 豊能町の魅力発見・コンテンツづくり

平成29年度に行った観光コンテンツ等の調査をもとに、コンテンツのブラッシュアップを図り発信するとともに、引き続き、町内における宿泊施設、カフェ、レストラン等の観光・滞在拠点の設置の支援、町の魅力発見とコンテンツ化を進めます。

(※補足資料)

## 1. 農×観光情報発信拠点の展開

平成28年10月に試行的に営業を始めた農産物直売所「志野の里」では、これまで、年間1万人を超える来店者があり、その半数近くは町外からの来店者と考えられます。

しかしながら、これまで、営業日が水曜日（7月～12月）と土曜日、日曜日に限られていたことから、情報発信拠点として、十分な機能を果たしているとは言えず、また、敷地や店内が手狭であり、滞在できる場所や駐車場が限られており、魅力ある農産物が少なく供給量も限られていることから、来店者のほとんどは、買い物を済ませると早々に退店しており、情報発信施設や拠点施設としての機能や役割を十分に果たしていない状況にあります。

そのため、今後は、営業日数を増やすなど運営の強化を図るとともに、農産物や加工品の品揃えを充実し、特産品の開発に努めるなど、施設の魅力の向上を図り、農業・観光の発信機能を高めます。

さらに、情報発信施設の機能充実を図るため、国道423号線沿いの町有施設の有効活用を図るとともに、企業誘致を進める中で企業との連携を模索し、新たな拠点づくりを目指します。

また、平成29年以降、町内にレストラン兼民泊1軒、カフェ2軒、民泊1軒が開設され、課題であった本町に長期に滞在できる拠点となる施設が整備されています。こうした事業者や町内外の関係機関との有機的な連携のもと、魅力的な事業を展開するとともに、地域協働による人を呼び込む仕組みづくりを進め、HPやSNSを積極的に活用し、関係人口の増加と相互に顧客が行き交えるよう情報発信を行います。